

学校教育目標	かしこい子(知) やさしい子(情) がんばる子(意) げんきな子(体)
目指す学校像	一人ひとりのよさが輝き 笑顔と元気があふれる学校

重点目標	1 未来を担う子どもたちが将来を力強く生き抜くための真の学力の育成 2 主体的・実践的な態度を育成するための教育活動全体を通しての意図的な指導 3 学校を支えている地域の方や保護者を大事にし、地域とともにある学校づくりの推進 4 教育環境のハード面とソフト面の整備と安全・安心の確保 5 教職員のキャリアに応じて協働・協同し、組織を生かす学校・学年・学級経営
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学びの質の向上に関する取組

心の子どもの発達やサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

学 校 自 己 評 価					学 校 運 営 協 議 会 に よ る 評 価				
年 度 目 標					年 度 評 価				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日 令和 年 月 日	
								学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	○R6年度の「学びの指標」の結果において、数値が1回目より2回目の方が大方の学級で数値が上がった。そのうち0.5ポイント以上上がっている学級が約半数近くあった。 ○個別最適な学びの手段として児童が学習方法等を選択する授業や、タブレット等による協働的な学びが、学年が上がるにつれ進んでいる。 ○授業において、発達段階に応じて学習の見通しをもたせるようにしている。 △授業で学んだ力を生かす場として、特別活動等全ての教育活動において、子どもが主体的に活動できる場を推進していきたい。	○学習指導の充実 ○主体性を引き出す教育活動の充実	○「学びの指標」を生かして授業を実践し、アンケート結果に基づき指導法の工夫改善を図る。 ○小・中一貫教育の研究について、内谷中・浦和大里小と更なる連携をし、より具体的な研究を推進する。 ○「沼影小学校をもっとよくしよう提案」の提案内容の実現のために、具体的な助言や支援を行う。 ○委員会活動や学校行事等に児童の思いが生きるよう、各担当教員を中心に支援や指導をする。	○「学びの指標」の2回目の数値が1回目より0.5割上昇の学級が半数を超える。 ○内谷中・浦和大里小との合同研修会を年3回以上実施、授業公開を教科ごとに年1回以上実施する。 ○全校に関わる内容の提案に関しては年間2回実践のほか、個別の対応は常時行う。 ○教員の支援指導による児童の思いが生きた委員会活動や学校行事になっている。					
2	○子ども同士の間関係の対応は、学年の教職員を中心に複数で行い、管理職への報告を行うとともに、即日、保護者へ連絡する体制である。SCやSSWへの相談、関わりも積極的に行っている。 ○R6年度の児童アンケート「先生はいじめなどで困っていることをとりあげる」肯定的評価95%、保護者アンケート「教職員は相談に親身になる」肯定的評価93%となった。 △児童理解、生徒指導のスキルを教職員全員が身に付けられるようにしたい。	○児童理解・生徒指導の充実 ○いじめ等への早期発見・早期対応	○子どもの発達、児童理解・生徒指導に関する研修会を校内で実施する。(理論と実践両面が含まれるように) ○毎月の生徒指導・教育相談部会による確実な情報共有と情報伝達をする。 ○学年会等で積極的に情報共有を行う。 ○いじめや悩みの早期発見・早期対応のために心のポストや心のカード等を活用する。 ○「特別の教科 道徳」を要とする道徳教育を充実させる。	○研修会後に各教職員が実践し、成果を共有している。 ○教職員が一人で課題を抱えずに、学年単位等で情報を共有し対応している。 ○人間関係のトラブル等の初期対応を適切に行い、いじめを未然に防ぐ(いじめを覚知した際、関係教職員間で素早く情報を共有し、早期対応をする)。 ○毎回の道徳の学習で、児童が自分の考えを書き溜めている。					
3	○地域や育成会主催の子どもが参加できる行事が多数あり、参加する子どもが増加している。(R6年度教職員アンケート「家庭地域との連携」肯定的評価79%(A評価前年度比+23割)、保護者アンケート「地域の活動に積極的に参加」肯定的評価53%(前年度比+6割)) ○地域には、学習等に生かせる人材や教材が多い。 △地域の行事への参加は徐々に増えてきているが、全国平均と比較するとまだ参加率が低い。 △学校内や登下校中のあいさつは増えてきたが、地域の方へのあいさつは、更なる広がりが必要である。	○学校運営協議会を軸とした地域との連携 ○教育活動等の積極的な発信	○①学校運営協議会や学校地域連携コーディネーターと連携して得た人材や教材を、教育活動で活用する。 ○昨年度から続けている「あいさつのわ」や児童会のあいさつ運動を保護者や地域にも働きかけ拡大する。 ○学校だよりやHP、ポスター掲示等で地域行事や育成会のイベント情報を掲載するとともに、各学級でも声がけをする。	○3年の総合的な学習の時間の地域を学ぶ際や、1年生の生活科の昔遊びなどで地域人材を活用する。 ○「あいさつのわ」が地域や保護者に拡大し、教職員・保護者・児童へのアンケート結果がR6年度比+5割となる。 ○地域や育成会のイベントへの参加率がR6年度より上がる。また、感想に来年への期待が寄せられる。					
4	○R6年度の教職員アンケート「学校施設の点検・整備」肯定的評価86%、うちA評価34%である。 ○R6年度、修繕箇所を確認し、校内での修繕と業者依頼の修繕等に分類し、簡易な修繕は1週間以内の対応ができた。 △教室や廊下等のスペース、荷物をかけるフックの不足により、図工の作品を展示する場所や児童の持ち物を余裕をもって片付得たり収納したりすることが困難である。	○施設・設備の整備と安全・安心な学校生活 ○学習環境の整備	○教職員による月1回の安全点検における確実な確認と、その後の速やかな手続き及び対応を実施する。 ○校内の整理整頓を徹底する。 ○掲示物、緑化活動による美しい環境を作る。 ○教職員の言語感覚(正誤・適否・美醜)の向上を図る。	○安全点検により修繕箇所を発見し、児童のけが防止等につながる。 ○校内が清潔にまたは美しく保たれる。 ○教職員の言語感覚が高まり、作成資料の精度が高まるとともに、児童への文章の指導力が高まる。					
5	○全体的に若手教員が多いが、大幅な人事異動により、年齢構成・経験年数については、R6年度と比較すると、バランスがよくなった。 ○各分野の専門性が高い教職員が多いため、学び合いができる環境にある。学習指導、学級経営、生徒指導等の指導技術、ベテランから中堅若手教員に学校行事の運営等の継承を推進したい。 △ICTの活用方法等キャリアに関係無く必要な知識・技能等については、全教職員で研修を積んでいく必要がある。	○教職員の資質向上 ○キャリアに応じた育成と協働・共同する職場の構築	○教職員一人ひとりが専門性を高めるために、研修等に積極的に参加するようにする。 ○学習指導については、指導案検討、研究授業・研究協議会を実施し、教科のものの見方・考え方を学ぶ。 ○キャリアナビを活用し、各教職員が自身の強み弱みを自覚し、目標を定めるようにする。	○校内研修において研修ごとに振り返りを行うことで、教職員が自身の理解度等を確認し、指導に生かしている。 ○全教職員参加の研究授業年間2回、各教科のサークル内の研究授業を各1回ずつ行う。 ○キャリアナビの自己評価の2回目と1回目と比較して数値が伸びる。					